



此書乃中國通志之...  
卷之...  
...

北京師範大學圖書館  
藏書



北京師範大學圖書館

藏書

Table with multiple columns and rows of text, possibly a calendar or ledger.



...

此書之序  
卷之四  
卷之五  
卷之六  
卷之七  
卷之八  
卷之九  
卷之十  
卷之十一  
卷之十二  
卷之十三  
卷之十四  
卷之十五  
卷之十六  
卷之十七  
卷之十八  
卷之十九  
卷之二十

卷之二十一  
卷之二十二  
卷之二十三  
卷之二十四  
卷之二十五  
卷之二十六  
卷之二十七  
卷之二十八  
卷之二十九  
卷之三十

本草綱目卷之八

卷之八



本草綱目卷之八  
卷之八

本草綱目卷之八  
卷之八

本草綱目卷之八

本草綱目卷之八

本草綱目卷之八



水

水

一、水之性，寒而潤，下而流，其於人也，莫如之。故曰：水者，地之血脈，人之命脈也。水之於人，猶血之於身。血枯則身死，水竭則人亡。故君子居則觀其象而玩其理，動則觀其象而法其德。此言水之德也。



二、水之德，莫大乎下。故曰：上善若水，水善利萬物而不爭。此言水之德也。水之於人，猶血之於身。血枯則身死，水竭則人亡。故君子居則觀其象而玩其理，動則觀其象而法其德。此言水之德也。



本草曰糖の糖と料  
 二種の用ひ糖は  
 赤糖の糖入さす  
 此は糖の糖  
 此は糖の糖

此糖は糖の糖は糖  
 此糖は糖の糖は糖  
 此糖は糖の糖は糖  
 此糖は糖の糖は糖

糖の糖の糖の糖



糖の糖の糖の糖  
 糖の糖の糖の糖  
 糖の糖の糖の糖  
 糖の糖の糖の糖

此物之功用，在於...

凡此等器具，皆係...



此物之功用，在於... 凡此等器具，皆係...



其輪廻は決まらぬ土にこそ其の縁  
 本作りて世を疑ふはたすものにて  
 縁を捨てるもまた縁は捨れずは  
 縁を捨るゝもまた縁を捨るゝは  
 縁を捨るゝは

縁を捨るゝは

縁を捨るゝは縁を捨るゝは縁を捨るゝは



縁を捨るゝは縁を捨るゝは  
 縁を捨るゝは縁を捨るゝは  
 縁を捨るゝは縁を捨るゝは  
 縁を捨るゝは縁を捨るゝは

縁を捨るゝは縁を捨るゝは縁を捨るゝは

鳥部 鳥類 鳥類



鳥類 鳥類 鳥類 鳥類 鳥類 鳥類 鳥類 鳥類 鳥類 鳥類

鳥類 鳥類 鳥類 鳥類 鳥類 鳥類 鳥類 鳥類 鳥類 鳥類

鳥類 鳥類 鳥類 鳥類 鳥類 鳥類 鳥類 鳥類 鳥類 鳥類

本草綱目卷之六  
一、  
二、  
三、  
四、  
五、  
六、  
七、  
八、  
九、  
十、

本草綱目卷之六

本草綱目卷之六  
一、  
二、  
三、  
四、  
五、  
六、  
七、  
八、  
九、  
十、

寸書に明に云ふことあり

山に其の樹木多し人家の古

く居たり山野に樹木多し山

野に樹木多し山に樹木多し

山に樹木多し山に樹木多し

山に樹木多し山に樹木多し

山に樹木多し山に樹木多し



山人の居る所あり

山に樹木多し

山人の居る所あり

山に樹木多し

山人の居る所あり

山に樹木多し

山人の居る所あり

且、國事の成否は、

大は其の如事と、是れ亦た古事亦様  
とあれども、昔の如く人に聞は、且つ  
其の愚民の如きものあり、其の愚  
心こそ、極まで教へて、物をさす  
一、或は事につまみ、人こそ其の  
て、常に我を尊し、一の又、國に用ふ

且、國事

國は、古事亦様と、其の愚民の如  
きものあり、其の愚心こそ、極  
まで教へて、物をさす、一、或  
は事につまみ、人こそ其の  
て、常に我を尊し、一の又、國  
に用ふ

... 卷之... 第... 頁...  
... 卷之... 第... 頁...  
... 卷之... 第... 頁...  
... 卷之... 第... 頁...  
... 卷之... 第... 頁...  
... 卷之... 第... 頁...  
... 卷之... 第... 頁...  
... 卷之... 第... 頁...  
... 卷之... 第... 頁...  
... 卷之... 第... 頁...

... 卷之... 第... 頁...  
... 卷之... 第... 頁...  
... 卷之... 第... 頁...  
... 卷之... 第... 頁...  
... 卷之... 第... 頁...  
... 卷之... 第... 頁...  
... 卷之... 第... 頁...  
... 卷之... 第... 頁...  
... 卷之... 第... 頁...  
... 卷之... 第... 頁...

江戸通商の始末

一、（一） 本邦通商の始末

一、（二） 本邦通商の始末

一、（三） 本邦通商の始末

一、（四） 本邦通商の始末

一、（五） 本邦通商の始末

一、（六） 本邦通商の始末

一、（七） 本邦通商の始末

一、（八） 本邦通商の始末

一、（九） 本邦通商の始末

一、（十） 本邦通商の始末

一、（十一） 本邦通商の始末

一、（十二） 本邦通商の始末

一、（十三） 本邦通商の始末



斜日紅十字者一  
 不云以十字者一  
 不云以十字者一  
 不云以十字者一  
 不云以十字者一  
 不云以十字者一  
 不云以十字者一  
 不云以十字者一  
 不云以十字者一  
 不云以十字者一

反了者... 十字者... 十字者... 十字者... 十字者... 十字者... 十字者... 十字者... 十字者... 十字者...

十字者... 十字者... 十字者... 十字者... 十字者... 十字者... 十字者... 十字者... 十字者... 十字者...

十字者... 十字者... 十字者... 十字者... 十字者... 十字者... 十字者... 十字者... 十字者... 十字者...



二十寸、二十寸、二十寸、

二十寸、二十寸、二十寸、

二十寸、二十寸、二十寸、

二十寸、二十寸、二十寸、

二十寸、二十寸、二十寸、

二十寸、二十寸、二十寸、

二十寸、二十寸、二十寸、



二十寸、二十寸、二十寸、二十寸、二十寸、二十寸、

二十寸、二十寸、二十寸、

二十寸、二十寸、二十寸、二十寸、二十寸、二十寸、

二十寸、二十寸、二十寸、二十寸、二十寸、二十寸、

二十寸、二十寸、二十寸、二十寸、二十寸、二十寸、

二十寸、二十寸、二十寸、二十寸、二十寸、二十寸、

二十寸、二十寸、二十寸、二十寸、二十寸、二十寸、

二十寸、二十寸、二十寸、二十寸、二十寸、二十寸、

此書之體裁，蓋仿《詩經》之風、雅、頌，而參以《楚辭》之體，其辭藻之富麗，筆力之雄健，實為漢代詩歌中之冠。其內容則多為對君臣、父子、夫婦之誼，以及自然景物之描寫，情感真摯，動人肺腑。此書之出，不僅豐富了漢代文學之表現形式，亦為後世詩歌之發展奠定了堅實之基礎。

漢代詩歌之發展

漢代詩歌之發展，可分為兩期。前期為西漢，詩歌多受《詩經》影響，風格質樸，注重教化。後期為東漢，詩歌受《楚辭》影響，風格華麗，注重抒情。此書之出現，正是漢代詩歌發展之重要標誌。

此書之內容，多為對君臣、父子、夫婦之誼，以及自然景物之描寫，情感真摯，動人肺腑。其辭藻之富麗，筆力之雄健，實為漢代詩歌中之冠。其內容則多為對君臣、父子、夫婦之誼，以及自然景物之描寫，情感真摯，動人肺腑。

此書之體裁，蓋仿《詩經》之風、雅、頌，而參以《楚辭》之體，其辭藻之富麗，筆力之雄健，實為漢代詩歌中之冠。其內容則多為對君臣、父子、夫婦之誼，以及自然景物之描寫，情感真摯，動人肺腑。

魚之類也

其性貪食  
且能食  
其類也



其性貪食且能食其類也

魚之類也

其性貪食

且能食

其類也

其性貪食

且能食

其類也

其の形は、類よりたゞしくして、小ましく  
其の味は、類よりたゞしくなり、其の  
骨にまよまよ所に筋を置敷のこゑ、  
肉にまよまよの筋ありて、筋を置敷  
類は、其の體圓として細長く、筋め  
てまよまよの筋あり、其の肉は、筋に  
り合ふに、味を置敷のこゑ

魚の類  
魚の類の性質

魚の類は、水に生るる、其の性質は、水に  
生るる、其の味は、水に生るる、其の  
骨にまよまよ所に筋を置敷のこゑ、  
肉にまよまよの筋ありて、筋を置敷  
類は、其の體圓として細長く、筋め  
てまよまよの筋あり、其の肉は、筋に  
り合ふに、味を置敷のこゑ



此藥之功用、能治一切之病、其效如神、凡有病者、服之立見功效、誠為濟世之良藥也、

凡人體弱、或因病後、或年老、或婦人、或兒童、服之皆宜、誠為補劑之聖藥也、

此藥之功用、能治一切之病、其效如神、凡有病者、服之立見功效、誠為濟世之良藥也、

凡人體弱、或因病後、或年老、或婦人、或兒童、服之皆宜、誠為補劑之聖藥也、

此藥之功用、能治一切之病、其效如神、凡有病者、服之立見功效、誠為濟世之良藥也、

凡人體弱、或因病後、或年老、或婦人、或兒童、服之皆宜、誠為補劑之聖藥也、

此藥之功用、能治一切之病、其效如神、凡有病者、服之立見功效、誠為濟世之良藥也、

凡人體弱、或因病後、或年老、或婦人、或兒童、服之皆宜、誠為補劑之聖藥也、

此藥之功用、能治一切之病、其效如神、凡有病者、服之立見功效、誠為濟世之良藥也、



江戸の町は、昔より  
の賑わい、正合ひ其  
の景も、昔ながら  
の風情も、今も  
変わらぬ、此は、東  
京の地味も、正合ひ  
の賑わいも、正合ひ  
の景も、昔ながら  
の風情も、今も

江戸

江戸の町は、昔より



江戸の町は、昔より  
の賑わい、正合ひ其  
の景も、昔ながら  
の風情も、今も  
変わらぬ、此は、東  
京の地味も、正合ひ  
の賑わいも、正合ひ  
の景も、昔ながら  
の風情も、今も

又 讀 亦 曰 亦 謂 曰 曰 曰 曰 曰 曰

亦 謂 曰 曰 曰 曰 曰 曰 曰 曰

亦 謂 曰 曰 曰 曰 曰 曰 曰 曰

亦 謂 曰 曰 曰 曰 曰 曰 曰 曰

亦 謂 曰 曰 曰 曰 曰 曰 曰 曰

亦 謂 曰 曰 曰 曰 曰 曰 曰 曰

亦 謂 曰 曰 曰 曰 曰 曰 曰 曰

亦 謂 曰 曰 曰 曰 曰 曰 曰 曰

亦 謂 曰 曰 曰 曰 曰 曰 曰 曰

亦 謂 曰 曰 曰 曰 曰 曰 曰 曰

亦 謂 曰 曰 曰 曰 曰 曰 曰 曰

亦 謂 曰 曰 曰 曰 曰 曰 曰 曰

亦 謂 曰 曰 曰 曰 曰 曰 曰 曰

亦 謂 曰 曰 曰 曰 曰 曰 曰 曰

亦 謂 曰 曰 曰 曰 曰 曰 曰 曰

亦 謂 曰 曰 曰 曰 曰 曰 曰 曰

亦 謂 曰 曰 曰 曰 曰 曰 曰 曰

亦 謂 曰 曰 曰 曰 曰 曰 曰 曰

卷之三

一、

一、  
二、  
三、  
四、  
五、  
六、  
七、  
八、  
九、  
十、



十一、  
十二、  
十三、  
十四、  
十五、  
十六、  
十七、  
十八、  
十九、  
二十、



中華民國二十九年

法 律 學 院 附 屬 法 律 學 系

學 生 名 冊



第 一 學 期

第 一 學 期

學 生 名 冊

第 一 學 期

中華民國二十九年

法 律 學 院 附 屬 法 律 學 系

學 生 名 冊

中華民國二十九年

空 人 印 章